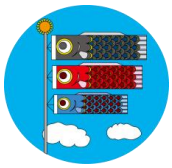
横浜市阿久和小学校
Akuwa elementary school in Yokohama city

学校だより　5月号

令和５年４月２８日
校長　荒井　智津子



学校教育目標　「みんなかがやけあくわっ子」
～自分らしく輝く子の育成をめざして～　夢の実現に向かって行動する子
あいさつから輪を広げる子　くふうして学び続ける子　わたしもあなたも命を大切にする子

「子どもを育てるということは、子どもの中に生きる喜びと希望を育てること」

校長　荒井　智津子

今年度の阿久和小学校では「子どもの主体性を伸ばす教育活動」の在り方に焦点を当て、重点研究として取り組みます。

学習でいえば、子どもが主体的になるためには、「自分事」として関わり、「夢中になれる」ことが必要です。取り組んでみたい活動があること。興味関心をもつ教材との出会いがあること。見通しをもって学びを進め、自己の成長が感じられること。そして、これまで学んできたことと今の学びがどうつながっているのか、次にどう生かせるのかという学びの地図が思い描けることなどが必要だと考えます。

今から約１２０年以上前に「児童の世紀」を書いたスウェーデンのエレン・ケイ氏が残してくれた言葉のように、子どもたちの心の中に生きる喜びと希望を育てることが、私たちの大切な仕事の一つではないでしょうか。

私は小さいころから「ごんぎつね」の作者である新美南吉さんの本が好きでした。新美南吉さんの作品は、温かくて少し物悲しい内容が多く、読んでいるうちに心が穏やかになり落ち着きます。短編の物語を夢中になって読み進めるうちに「どうしてこんな文章が書けるんだろう」「どんな人だろう」「何歳のころに書いた作品だろう」と考えるようになりました。小中学生のころ、学習の中で友達の問いと自分の問いの違いに気づいたり、作品の違いを比べて話し合ったり、それらの学びを誰かに伝えたりする授業が、大変楽しかったことを記憶しています。

阿久和小学校でも「知らなかったことを知ることができた。できなかったことができるようになった。」という学ぶ楽しさを追求できるような授業づくりや単元づくりをめざし、日々授業改善を図っています。

今月行われる「チェレンジフェスタ」でも、子どもたちが夢中になって取り組んでいる姿を見ていただけるように、楽しさ最大のチェレンジフェスタをみんなで創りあげたいです。

二ひきのかえる　　新美南吉

緑のかえると黄色のかえるが、畑のまんなかでばったりゆきあいました。
「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」と緑のかえるがいいました。
「きみは緑だね。きみは自分が美しいと思っているのかね。」と黄色のかえるがいいました。
こんなふうに話あっていると、よいことはおこりません。二ひきのかえるはとうとうけんかをはじめました。（略）